

平成19年12月7日

GGG 創立 30 周年記念事業

「木材腐朽菌モデル対策 現地検討会」を開催

貴重な樹木に寄生し深刻な被害を与える木材腐朽菌対策の検討

近年、台風などの強風による倒木で、貴重な文化財や建物などが被害に遭うケースが目につきます。この樹木の枯損や衰退の大きな原因の一つに「木材腐朽菌（キノコ）」がありますが、残念ながら、わが国においては木材腐朽菌の被害対策の研究はあまり進んでいない現状にあります。

（社）ゴルフの緑化促進協力会（GGG。会長：児島仁、理事長：大西久光）は、創立30周年記念事業の一つとして、「安全対策・景観保持」の観点から本分野の調査・研究、その成果としての「緑化樹木腐朽病害ハンドブック」の発行などを実施しているところですが、その一環として、「木材腐朽菌モデル対策現地検討会」を12月6日（木）に茨城県城里町において、別添「ご案内」のとおり、県内市町村の樹木管理関係者、樹木医、ゴルフ場関係者等を招いて開催し、約50名が参加しました。

会場となる城里町コミュニティーセンターの敷地内には、城里町指定文化財・天然記念物であり、樹高11.5m、幹周り4.28m、樹齢350-400年と推定される巨樹「スダジイ」が生育しています。



コミュニティーセンタ敷地内の巨樹「スダジイ」



贈呈式（左：城里町 金長町長、右：GGG 古賀理事・運営委員）

当日は、同コミュニケーションセンターにおいて、GGG理事・運営委員の古賀始から本樹木の管理を担当されている城里町の金長義郎 町長に対して『茨城県城里町スダジイ診断・対策報告書』を贈呈、専門家による講演が行われたのち、場所をスダジイ生育場所に移し、木材腐朽菌に侵されつつあるスダジイの診断と対策、樹勢回復に向けての専門家の

実演・解説が行われました。



贈呈式のあと、実演・解説開場の「スタジイ」の前で



樹木医などによる実演・解説の様相

(診断、50%近い腐朽枝への支柱、土壌改良、病虫害対策など)



スタジイの大枝に発生した「シイサルノコシカケ」



スタジイ脇に立てられた今回の現地検討会の看板

なお、現地検討会の実施に当たっては、同町のほか、日本樹木医会茨城県支部、樹木医学学会のご協力を頂きました。

本件問合せ先

(社)ゴルフの緑化促進協力会 担当：西本、麻生
電話；TEL：03-3584-2838 FAX：03-3584-2847

木材腐朽菌モデル対策現地検討会のご案内

～ 貴重な樹木に寄生し深刻な被害を与える木材腐朽菌対策の検討～

社団法人 ゴルファ - の緑化促進協力会
財団法人 日本緑化センター

樹木の枯損や衰退の原因となるものに木材腐朽菌があります。この菌が幹や根の腐朽を進行させると、強風などによって樹木や大枝が折れたり根返りを起こし、生命や財産に深刻な被害を及ぼします。

近年、緑化樹木腐朽病害はソメイヨシノ、ケヤキ、スダジイなど道路・公園・学校・寺社・ゴルフ場に植えられている樹木に発生し、安全を脅かすものとして樹木医などの診断・対策技術の中で最重要課題となっています。

(社)ゴルファ-の緑化促進協力会は創立30周年事業の一環として、(財)日本緑化センターに委託し緑化樹木腐朽病害の実態調査を行い、「緑化樹木腐朽病害ハンドブック - 木材腐朽菌の見分け方とその診断」を発刊いたしました。

このハンドブックを現場における技術書として活用を図るため、平成19年度は茨城県においてスダジイの診断と当面の対策を実施し、木材腐朽菌について広く関係者の方々に理解を深めて頂くため、現地検討会を下記のとおり開催いたしますのでご案内申し上げます。

1. 日時 平成19年12月6日(木) 13:00～17:00
2. 場所 茨城県東茨城郡城里町石塚 コミュニティーセンター城里会議室
3. 内容

12.40～	受付
13.00	1)開会 西本敏雄:(社)ゴルファ-の緑化促進協力会専務理事
13.10～13.30	2)「茨城県城里町スダジイ診断・対策報告書」の贈呈 (社)ゴルファ-の緑化促進協力会 理事・運営委員古賀 始氏より金長 義郎町長へ
13.30～14.15	3)スダジイの診断と対策 中村澄夫:日本樹木医会茨城県支部長
14.30～16.40	4)診断と対策の解説(敷地内のスダジイ植栽場所へ移動) スダジイに加害するアイカワタケとシイサルノコシカケの腐朽状況と子実体の除去、土壌断面の観察、土壌改良の実演、支柱設置などを樹木医等により解説・実施。

4. 問合せ・参加申し込み先 (財)日本緑化センター 担当:緑化技術部主幹 瀧 (tel:03-3585-3561)

主催 (社)ゴルファ - の緑化促進協力会
共催 (財)日本緑化センター
後援 日本樹木医会茨城県支部

(参考1)

(社)ゴルフの緑化促進協力会 創立30周年特別記念事業

おかげさまで、当会は昭和51年に創立されて、昨年30周年を迎えました。これを記念して次の事業を行っています。

安全対策・景観保持の樹木管理技術の調査研究

公園・街路・ゴルフ場など身近にある樹木が強風などより倒れ、周辺に被害を及ぼすケースが散見されます。その原因の一つとして木材腐朽菌(キノコ)病が考えられ、樹木医による全国的な調査を実施、このデータをもとにビジュアルなガイドブック「緑化樹木腐朽病害ハンドブック --木材腐朽菌の見分け方とその診断」を発売しました。現地検討会の実施や、樹木医・緑地管理者・グリーンキーパー等実務者の利用を図ることにより、安全対策・景観保持に貢献できればと考えております。

サトザクラ優良品種30種の選定と記念植樹

桜の遺伝子保存に取り組んでいる多摩森林科学園の協力の下、(財)日本さくらの会に「サトザクラの優良品種30種」を選定いただき、感謝の意を込めて協力ゴルフ場はじめ全国各地で植樹をご希望される公共的な場所などに贈呈、記念植樹を実施し、大変ご好評を戴いています。この模様は一部、テレビや新聞でも報道されています。

東京の森づくりモデル事業

都市近郊の森は、人々にとって安らぎ、健康増進、学習研究など、多目的に利用できる極めて大切な場所ですが、残念なことに、その多くは手入れがされず本来の役割りを充分果たせない状態にあります。そこでこの度、全国の保健保安林の新しい活用モデルとしての先鞭をつけるべく(社)ゴルフの緑化促進協力会・東京都農林水産振興財団・大学等研究機関・森林ボランティア団体などが協力して、東京都裏高尾の木下沢都有保健保安林の再生活用事業に平成18年から20年までの3年計画で取り組んでいます。

小冊子「マツに親しもう」の発行と配布

日本人にとって最も身近な樹木である「マツ」を通じて自然や環境に関心を深めて頂くため、小冊子「マツに親しもう---マツは環境案内人」を発行・配布しました。本冊子には、マツにまつわる歴史・文化・科学など幅広く興味深い内容が盛り込まれており、読み物としても楽しんで戴ける内容で、たいへん好評を博しております。

(参考2)

社団法人 ゴルファーの緑化促進協力会の概要

(ゴルフ界の社会貢献活動の一翼を担う公益法人)

1. 設立と目的

昭和51年(1976年)9月、環境庁(現:環境省)許可の公益法人として設立。

ゴルフ場のご協力を得て、ゴルファの方々から緑化協力金(1人1日50円)を募り、学校・病院・福祉施設など社会公共施設を中心とした緑化、環境保全事業を推進。

2. 主な役員

会長 : 児島 仁 (NTT 特別顧問)

理事長 : 大西久光 (日本ゴルフコース設計者協会理事長)

理事・運営委員 : 古賀始 (NPO 法人 日本芝草研究開発機構理事長)

専務理事 : 西本敏雄

3. 主な収益 (H18年度 約2億円。 緑化協力金等の累計 97億円)

(ご協力頂いたゴルフ場 366ゴルフ場)

ゴルファーの方々からの善意の緑化協力金

企業・団体からの寄付金

ホールインワン保険等からの個人の寄付金

4. 主な事業 (18年度末まで)

地方緑化事業 : 全国の小中学校・病院・福祉施設等公共施設への植樹

(累計、7800箇所へ187万本) 各県緑化推進委員会等に委託

全国緑化事業 : 全国的な環境緑化・環境保全

松枯れ対策 : 抵抗性松苗木の研究、松島・佐渡等の松枯れ対策支援

校庭の芝生化 : 神戸市、大阪府の小学校等モデル事業の支援、踏まれ強い芝生研究助成。

「校庭芝生化のすすめ」の発刊

生物多様性保全 : 世界自然遺産屋久島の“ヤクタネゴヨウ”松、小笠原の絶滅危惧動植物、

南アルプス・八ヶ岳地方の「ヒメバラモミ」の救済支援

安全・景観保持 : 千葉県東金市八鶴湖での「サクラてんぐ巣病対策モデル事業」の実施、

木材腐朽菌病対策の研究助成、「緑化樹木腐朽病害ハンドブック」の発刊

環境教育の支援 ; 「マツとあそぼう」「学校の樹木と土を元気にしよう」

「マツに親しもう」などの冊子の発行

復興植樹 : 雲仙普賢岳被災地の「さくらパーク」に復興植樹

都市の防災モデル植樹 : 練馬区大泉中学校へのモデル植樹

酸性雨対策 : 実態調査と出版

国立公園内の自然保護 NGO 活動の支援